

海外実習の経験が卒業後のキャリアデザインに与える影響

鈴木 達也

聖隷クリストファー大学

【はじめに】

本学では海外研修や海外実習が行われている。参加学生の感想では、「海外や英語に対してさらに興味が増した」、「専門性を高めることの必要性がある」などの肯定的な回答が得られている。しかし、卒業後のキャリアデザインに実際どのような影響があるのかは明らかではない。そこで本研究では 2 週間の海外実習参加経験のある作業療法学科の卒業生にインタビューを行い、現在のキャリアにどのような影響を与えているのかを明らかにする。

【方法】

本研究では国際作業療法実習に参加経験のある卒業生にインタビュー依頼を行った。研究参加に同意を得た者を研究対象とした。インタビューは対象者の都合によってオンラインでのインタビューも実施した。インタビューデータは逐語録化して分析した。なお分析には、時間を重視しながら、人間の多様性や複雑性を扱うための研究の方法論の 1 つである複線経路等至性モデル (TEM) を用いてそのプロセスを描くこととした。なお本研究は聖隷クリストファー大学倫理委員会の承認 (承認番号 19-055) を得て実施した。

【結果】

研究参加に同意を得られたのは 9 名 (男性 2 名, 女性 7 名)。作業療法士としての経験年数は 3-8 年目だった。9 名ともに、1 年次または 2 年次の夏に 10 日間のシンガポール海外研修への参加経験と、2 年次または 3 年次の 3 月に 3 週間のシンガポール海外実習の参加経験があった。一回のインタビューはおよそ 40-60 分程度であった。

描かれた TEM 図から海外研修に参加する動機は、「先輩や家族からのすすめ」、「何かをしてみたい」という思い、元々あった「海外への関心」などが述べられた。海外研修参加後に実習に参加する際には「もっと海外のことを知りたい」という思いや、「出会った友人とまた会いたい」、「深く学びたい」という気持ちがあり、国際実習への参加と繋がっていた。国際実習参加後は海外への関心がさらに高まり、海外事業を行っている病院へと就職していたり、国際学会に参加している者もいた。一方で海外には出ていないが新しいことに挑戦したり、出会った友人とはインターネット上で繋がっていたり、現在の就職地で海外から来た人への対応をしようと思った役割を担っている者がいた。

【考察】

今回、9 名のインタビュー結果から在学中に海外研修・国際実習に参加することで参加者の考え方の広がりになると考えられた。また参加者によっては国際学会への参加や海外事業への関わりを行っている者もいれば、国内でその経験を生かしそれぞれの臨床に向かっていると考えられた。横田 (2016) は海外留学を経験することでリスクを恐れず新しいことにチャレンジする気持ち、多様な価値観の人々を受け入れる姿勢などが形成されると述べている。このことから海外研修に参加することは国外だけでなく国内でも活躍できるキャリアデザインにつながる経験になると考えられた。